

診療支援部歯科技工部門

医歯学総合病院・歯科技工士 木村修平



先号からスタートした診療支援部だよりですが、今回は我々歯科技工部門にお鉢が回ってきました。歯学部ニュースには初登場となりますので、まずは部門紹介をいたします。

昭和42年の病院開設時に補綴科所属技工室として発足し、昭和48年に技工士技工室となりました。開設当初の定員は3名でしたが、何回かの増員や昭和51年の歯科技工士学校創設に伴う配置転換などを経て、現在は6名の歯科技工士によって業務を行っています。平成15年の医歯学総合病院への統合に伴い、平成16年4月に診療支援部が組織され歯科技工部門となりました。診療支援部の組織、構成については前号で歯科衛生部門の吉岡さんが詳しく紹介されていたので省きますが、医科も含めた医療技術職員に横の繋がりができ、それぞれの部門における問題に組織で対応できるということは大きな前進だと思います。

【業務について】

一般技工は勿論ですが、数年前に開設された各専門外来からの製作依頼が多くなっています。いびき外来の睡眠呼吸障害の治療用シーネやインプラント外来の上部構造製作等、年々高度な先進医療が導入されている中で、我々もそれに対応するため日々研鑽に努めています。

また、歯科技工士の卒後研修機関として、県内はもちろんですが、北海道、福島、長野など全国各地から広く病院研修生を受け入れています。過去にはアルゼンチンから来日した新潟県の海外研

修員を研修生として受け入れたこともあり、歯科技工士の技術・知識の向上や、本院と地域の医療機関との連携を促進し、地域医療の発展に貢献しています。

さらに、日本学術振興会の奨励研究に全員で応募し、高い採択率を得ています。歯科技工業務を行いながら研究を進めるのはとても難しいのですが、そこで得た研究の成果は、新潟歯学会、日本歯科技工学会、日本補綴歯科学会など各学会で発表をしています。

技工部門の問題点としてはメンバーの高齢化があります。構成員の入れ替わりが殆ど無いため平均年齢は毎年確実に1歳上がり、正確な数字は恐ろしくてここには書けません。

非常に緻密で正確な作業を必要とする歯科技工の業務に対して、いかに前向きに集中力を継続していけるかがこれからの大きな課題になってくると思います。

【素顔紹介】

歯学部ニュースで素顔拝見のコーナーは毎号楽しく拝読しているのですが、これまで登場の機会が無かったので、ここで少々自己紹介をしたいと思います。出身は新潟市のしも町で新潟地震の時



は保育園でお昼寝をしていました。その頃からの夢は漫画家になることで、絵や工作が大好きだったので歯科技工士になったのもなんとなく関連があるかも知れませんね。私が当院に就職したのは、新潟大学歯学部附属歯科技工士学校を卒業した昭和54年なので、もう少しで勤続30年になります。振り返ると長くも短くも感じますが、これからの10年も全力を尽くして歯科医療に貢献したいと思います。

さて、ここで趣味の話をお話ししましょう。何でもすぐ興味持ってやり出すすけ色々あるも、水曜日と土曜日はバドミントンをやってんさ。学生ん時は卓球ことしてて、生涯スポーツとして続けっかな〜と小学校の開放に行ったんだろも、

お年寄りばっからったすけバドミントンにしたんてば。新潟市の社会人リーグに参加してんだろも、よろっと引退しんばねーて。ボウリングも好きでさ、新潟大学職員大会とか組合の大会があつと毎回参加してんて。やっぱマイボール・マイシューズで、ハイスコアの279点はちっと自慢らんて。あとさ、マウンテンバイクで山登ったりもすんよ。汗ことどっつりかいて食べるお昼のおにぎりはばかうんめんて！ まら他にもダーツとかあんだろも、今回はこのぐれにしとこか。

病院で見かけた時には気軽に声をかけていただければ、仕事の事でも趣味の話でもお相手しますので、よろしく願いいたします。

